

「2023年度春季研究発表大会」のお知らせ

更新履歴

- 2月18日：要旨投稿期限の3月6日（月）23:59までの延長（予稿投稿期限は変更なし）。
午後の部の時間割の変更（「総会」時間の15分延長に伴う）。
「研究・イノベーション学会」ご協賛の追記。
- 4月4日：研究発表（午前）時間割の掲載。ご協賛の追記。

第35回 国際P2M学会 研究発表大会 The 35th Congress of International P2M Association

「SX(Sustainability Transformation)× DX(Digital Transformation)を支えるP2M」

2023年度の国際P2M学会春季研究発表大会を、下記の要領にて開催いたします。大会テーマは、「SX(Sustainability Transformation)×DX(Digital Transformation)を支えるP2M」です。つきましては、会員の皆様の研究発表を募集いたします。発表ご希望の会員は、今後ご案内する申し込み要領をご参照のうえ、期限までにお申し込みください。

なお、本大会は東京都市大学横浜キャンパス会場における対面とオンラインのハイブリッド形式にて開催いたします。遠方の方でもご自宅やご勤務先からご参加いただけますので、ぜひこの機会をご利用いただければ幸いです。

1. 大会テーマ

「SX(Sustainability Transformation)×DX(Digital Transformation)を支えるP2M」

2. 開催日・形式

- 開催日 : 2023年4月22日（土）
開催校 : 東京都市大学
会場 : 東京都市大学横浜キャンパス（3号館）
〒224-8551 神奈川県横浜市都筑区牛久保西3丁目3-1
開催形式 : 会場と配信のハイブリッド（新型コロナウイルス感染拡大状況等により変更する可能性もあります）

※インターネットに接続可能なパソコンやタブレットPC、スマートフォン等からご参加いただけます。

発表方法や参加方法の詳細は、決定次第本学会のHP上に掲載するとともに、オンラインでの参加方法は研究発表大会参加申込者にメールにて送信します。

開催校が定める新型コロナ感染症対策ステージに従い、状況によっては完全オンライン型での開催となる可能性もあります。

3. 開催団体に関する情報

主催 : 一般社団法人 国際 P2M 学会 (※)
共催 : 東京都市大学
会長 : 国際 P2M 学会会長 山本秀男
実行委員長 : 東京都市大学環境学部教授 岡田公治
実行副委員長 : 千葉工業大学社会システム科学部教授 下田篤
協賛 (五十音順) : 一般社団法人 情報サービス産業協会
一般財団法人 日本科学技術連盟
一般社団法人 PMI日本支部
研究・イノベーション学会
公益社団法人 化学工学会
特定非営利活動法人 日本プロジェクトマネジメント協会
地域活性学会
日本SPIコンソーシアム
日本生産管理学会
日本MOT学会

※一般社団法人 国際P2M学会 : 国際P2M学会事務局 〒162-0801東京都新宿区山吹町358-5
アカデミーセンター(平日 : 10 時~17 時) TEL: 03-6824-9371 / FAX:03-5227-8631

4. 大会要旨

持続可能な社会の実現 (Sustainable Development) は、限られた時間の中で達成せねばならない、人類全体に求められている共通の目標です。それを達成するためには、国や非営利団体、個人だけでなく、経済活動の柱である企業の活動・ビジネスモデルの変革、すなわち SX (Sustainability Transformation) が欠かせません。一方で、我が国の国際競争力の分析からは、直近 10 年間のビジネス効率性の急激な低下が指摘されており、IoT (Internet of Things)、ビッグデータ、人工知能 (AI: Artificial Intelligence)、デジタルツイン等、革新的なデジタル技術を活用した企業活動・ビジネスモデルの変革、すなわち DX (Digital Transformation) の必要性が叫ばれています。そして、企業活動・ビジネスモデルの変革を成功に導くためには、変革プログラムの適切なマネジメント、すなわち P2M が不可欠であることは疑いありません。さらには、変革プログラムマネジャーを養成するためのリスキリングも重要でしょう。

このような背景において、本大会では、SX および DX、あるいは SX と DX を掛け合わせた変革プログラムの企画・計画と実践、それを支える知識体系・マインドセットとしての P2M に関して議論します。

以上の通り、「SX(Sustainability Transformation)×DX(Digital Transformation)を支える P2M」をテーマに、皆様と議論していきたいと思っております。多くの方々のご参加をお待ち申し上げます。

5. 大会スケジュール : ※ 都合により、変更される場合があります。

(1) 午前 : 研究発表の部 ※発表プログラムは決定次第、学会ホームページに掲載します
09:20 - 12:15 研究発表

特別基調講演：吉田邦夫国際 P2M 学会名誉会長（ディスカッサント：亀山秀雄副会長、佐藤達男評議員）による特別基調講演（全体で 60 分）の実施を予定しています。

(2) 講演の部（予定）

12:15 - 13:15 昼食休憩

13:15 - 13:55 総会（会員）

13:55 - 14:00 休憩

14:00 - 14:10 開会挨拶 山本秀男 氏（国際 P2M 学会会長）

開催校挨拶 関良明 氏（東京都市大学副学長・教授）

14:10～14:50 基調講演 1：DX(Digital Transformation)の本質と推進課題

名古屋国際工科専門職大学教授 山本修一郎 氏

14:50～15:30 基調講演 2：SX(Sustainability Transformation)の本質と重要性

東京都市大学環境学部教授 佐藤真久 氏

15:30～15:50 休憩・設営

15:50～17:10 パネルディスカッション：「SX×DX の相乗効果、P2M との相乗効果」

モデレータ：岡田公治氏（東京都市大学教授）

パネリスト（順不同）：

山本修一郎 氏（名古屋国際工科専門職大学教授）

佐藤真久 氏（東京都市大学教授）

端山毅 氏（NTT データ、PMI 日本支部会長）

田隈広紀 氏（千葉工業大学准教授）

17:10 - 17:20 閉会挨拶 亀山秀雄 氏（国際 P2M 学会副会長）

6. 研究発表大会参加費関連

◆ 大会参加費：今大会の参加費支払いは 全て事前振込みのみにて受け付けます。

下記学会の銀行口座宛にお振込下さい。（振込最終締切：2023 年 4 月 13 日（木））

4 月 14 日（金）以降は、参加申込ならびに参加費振込の受付は致しません。

また、4 月 13 日（木）迄に未振込の場合は、投稿論文を予稿集に掲載致しません。

	早期割引参加費	参加費
	4 月 4 日（火）まで	4 月 5 日（水）～13 日（木）
会員：正会員、法人会員に所属の方	8,000 円	9,000 円
：学生会員	2,000 円	3,000 円
非会員：社会人、社会人学生	11,000 円	12,000 円
：学生、大学院生	4,000 円	5,000 円

※予稿の筆頭著者（当日の発表者）は、国際 P2M 学会会員に限られます。当学会に未加入の方は、遅くとも 2023 年 3 月 27 日（月）までに入会手続きを済ませてください。新規入会には、上記参加費とは別に、正会員が 12,000 円（入会金 2,000 円、年会費 10,000 円。社会

人学生を含みます)、学生会員が6,000円(入会金1,000円、年会費5,000円)、必要となります。

尚、入会費の振込み先は ホームページ及び入会申請フォームに記載の「ゆうちょ」口座です。大会参加費振込口座とは異なりますのでご注意ください。

入会手続きの詳細は、学会ホームページから、こちらをご覧ください

→ <http://iap2m.org/accept>

◆ 講演の部のみの参加費：学会員、非会員とも：無料

※P2Mにご関心をお持ちの方々の参加を広く呼びかけるために、本大会について、午後の部のみの参加は無料とします。午後の部のみ参加の場合も、必ず参加申し込みはおこなってください。

◆ 大会参加費振込み先銀行口座：

三井住友銀行(銀行コード：0009)

飯田橋支店(店番号：888)

普通預金(口座番号：7098073)

口座名義(一般社団法人 国際 P2M 学会)

※大会参加申し込み Web 画面で「領収書 ●必要」を選択した方には、大会開催後、領収書(PDF)をメールで送付いたします。

◆ 留意事項

※ 振込済みの参加費は、不参加の場合でも返金できません。

7. 参加申し込み方法

◆ 参加申込期限：

論文投稿者 3月20日(月)迄に申込み登録を済ませてください。

大会参加のみの方：参加費振込の締切4月14日(金)迄に申込登録を済ませてください。

◆ 研究発表大会参加申込みはこちらから(注. 発表者も、申込み登録が必要です)

http://www.iap2m.org/regist_taikai.html

◆ 参加登録に関する参考情報

ブラウザが Internet Explorer の場合、バージョンが新しいと無応答になる場合があります。

次の操作を参考にして下さい。<http://www.iap2m.org/pdf/ie201309.pdf>

8. 発表者への要旨と予稿の投稿登録に関するご案内

◆ 要旨の投稿期限及び方法：これに基づく研究発表プログラムは別に掲載します。

投稿期限：2023年3月6日(月)23時59分(厳守)

→要旨の投稿期限を2週間延長します。奮ってのご投稿をお待ちしています。

スライドのみのご発表も歓迎します。

発表予稿投稿期限の3月20日(月)18時は変更ありませんので、ご注意ください。

投稿方法 : 要旨は、次の URL から、web 登録画面に従い入力して下さい。

http://www.iap2m.org/regist_smallcongress.html

査読選択 : 予稿論文の審査を希望される方は、査読希望「●有」を画面上で選択してください。
尚、採択後の論文の学会誌掲載料は 30,000 円です。

投稿形式 : スライド形式のみの予稿も歓迎します。但し、その場合、査読は選択できません。

◆ 発表予稿投稿期限 : 2023 年 3 月 20 日 (月) 18 時

(厳守 ※締切後の投稿は一切受け付けられません。)

投稿方法 : 要旨投稿時に登録されたメールアドレス宛に、後日、編集委員から「予稿投稿方法」に関するメールが届きます。それに従い、MS-Word および PDF 形式の予稿を投稿してください。

◆ 受付メール確認のお願い

要旨及び予稿投稿後各 1 週間以内に、編集委員より受付メールを登録アドレス宛に送信します。
なお「(at)iap2m.org ((at)を@に読みかえてください。)」のドメインから届くメールが、迷惑メールフォルダに入らないように設定してください。万が一、着信しなかった場合は、下記学会事務局宛にお問い合わせ下さい。

国際 P2M 学会事務局 <http://iap2m.org/con-2/>

◆ 査読を希望される方へ :

査読論文 : 当学会では、予稿が査読論文として審査されます。
ただし、発表された論文に限ります。

頁数 : 最大 20 ページ

論文形式 : 本学会 HP「学会論文関連情報」(下記 URL)にある規程等(「学会論文投稿規程」、「学会論文投稿規程補足」、「著作権規程」)を遵守してください。合わせて「学会論文審査規程」についてもご確認ください。また「書式サンプル」も下記 URL に掲載されていますので、ご活用ください。

学会論文関連情報 : <http://iap2m.org/ronbun-info/>

補足 : (1) 予稿集に掲載された論文は、辞退などにより発表されなかった場合も、同じ内容では再投稿はできません。

(2) 予稿に P2M との関連性と関連参考文献を明記願います。

当学会の過去の論文誌は、J-stage から閲覧できます。

<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/iappmjour/-char/ja>

(3) 論文執筆経験が浅い方は、次のリンクにある Youtube「IAP2M チャンネル」にある P2M の基礎知識、事例による P2M の理解、論文の書き方に関する動画を視聴するほか、学術論文作成経験者から論文作成の指導を受けることをお勧めします。

<https://www.youtube.com/channel/UCeBCLQNhDeNAppaYVi7EfuA>

英文の要旨(または英文本文)は、可能な限り英文としての品質向上に努めて下さい。

- ◆発表方法：発表者に対して別途メールにて連絡いたします。会場での発表、遠隔地よりオンラインでの発表より選択可能です。議論を活発にするため会場での対面での発表を推奨しますが、オンラインによる発表であっても査読に不利になるなどの影響は全くありません。
- ◆発表時間：発表 15 分以内、質疑応答 5 分（全体で 20 分以内）
- ◆発表奨励賞：受賞者を選出し 5 月中旬に学会ホームページ上に掲載し表彰します。

9. P2M セミナー動画の更新、掲載

国際 P2M 学会では、P2M の基礎知識や適用事例を知りたい方、本分野での研究発表や論文投稿経験の浅い方のために、これらを本学会ベテラン講師陣が分かりやすく解説した次のセミナー動画（YouTube）を作成しています。

詳しくは、次のリンクをご参照ください。

<http://iap2m.org/youtube/>

10. 詳細プログラム・会場アクセス：次ページ以降のとおり（**詳細プログラムを掲載しました**）

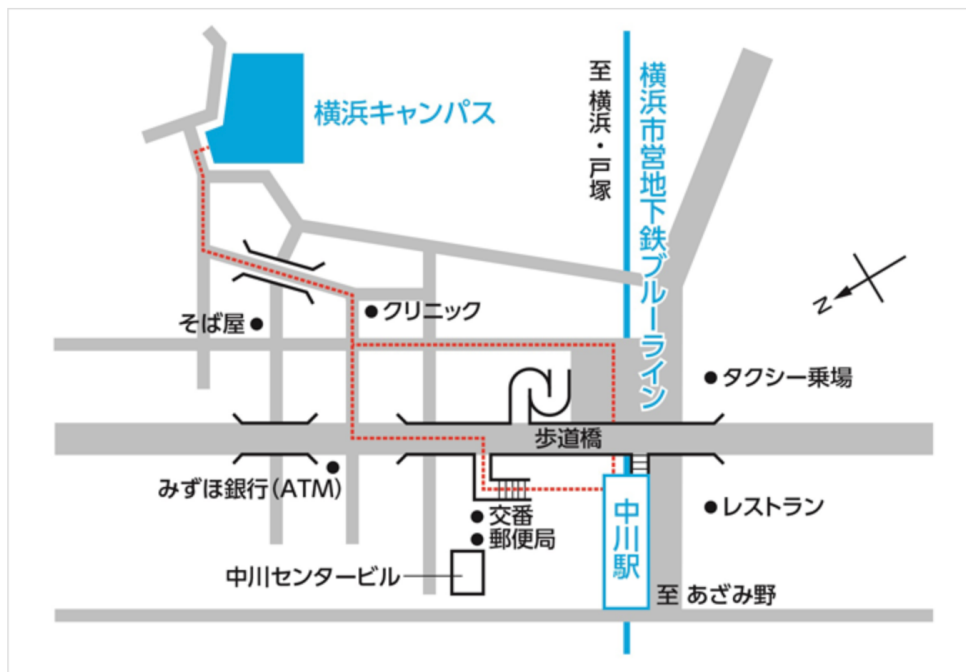
11. お問い合わせ先：国際 P2M 学会事務局 <http://iap2m.org/con-2/>

研究発表大会詳細プログラム

午前の部 (研究発表)					
会場	A会場 (32A教室)	B会場 (32B教室)	C会場 (32D教室)	D会場 (32F教室)	E会場 (32G教室)
研究発表トラック	P2M・研究開発・社会開発	企業経営	教育・人材育成	地域開発	ビジネス・国際開発
座長	亀山秀雄(A-1~2)・久保裕史(A-3~5)	下田篤(B-1~2)・佐藤達男(B-3~4)	岡田久典(C-1~2)・小笠原秀人(C-3~4)	田隈広紀(D-1~2)・玉木欽也((D-3~4)	加藤智之(E-1~2)・沖浦文彦(E-3~4)
9:20-9:40	A-1:山本秀男 変革プログラムのマネジメントに関する設計科学としての一考察	B-1:越智裕一、内平直志 基幹システム保守フェーズにおける組織間協働モデルの提案ー製造業A社の事例研究ー	C-1:中野良樹、玉木欽也、木内正光 P2Mを活用したSDGs・フェアトレード教育のためのプラットフォーム開発	D-1:永井祐二、中野健太郎、平塚基志、岡田久典 地域に根ざした脱炭素化に資するバイオマス活用研究における価値指標マネジメントのデザイン	E-1:鈴木里奈、高野祐希、岡田公治 ビジネスモデル変革プログラムにおけるビジネス環境シミュレータ構築法の検討(第2報)ーステークホルダー別判断ロジックの組み込みとシミュレーション実験への適用ー
9:40-10:00	A-2:谷口邦彦 S X並びにD Xを推進するH Xへの取り組み	B-2:山本孝志、内平直志 中小企業におけるDX推進プログラムの課題設定手法の提案 DX経営フレームワークによる考察	C-2:三枝澄絵、稲葉元哉 DX推進活動で現場力向上を実現する推進リーダのダブルループ学習	D-2:中野健太郎、永井祐二、宮本史人、大久保敏宏、小野田弘士、岡田久典 カーボンニュートラル政策における再生可能エネルギーの価値指標マネジメント上の課題と地域戦略	E-2:ザグダホロル ツェンベルドラム、平松庸一 SXとDXを架橋するP2Mマネジメントの可能性ーモンゴルのスタートアップ企業による実証研究ー
10:00-10:20	A-3:亀山秀雄、冨永貴寿、相澤絵美、松山宗一郎、若月遙、田中藍子、福山賢一、榎本伸子、森田将義 環境分野での競争的研究費配分業務におけるP2M導入による業務改善・改革・提案マネジメントについて	B-3:木村富也、杉原碧 インダストリー4.0スマートファクトリー構想プログラムマネジメントのための3Sモデルの有効性の検証	C-3:岡崎昭仁、張海鵬、舟岡智哉、田中慎也 P2Mに基づく学生フォーミュラを適用した人材育成方法の提案 第二報 電動車両の開発を通して	D-3:平田真代 地域課題解決DXプロジェクトを推進するためのP2M	E-3:坂本元 P2Mを用いたICTインフラ輸出に関する官民連携価値創造モデルの検討ーベルーの防災分野へのICT導入プロジェクトを例にー
10:20-10:40	A-4:下田篤 高齢者介護におけるICT技術を活用した生産性向上への取り組み状況の整理	B-4:加藤智之、武本和久、稲山嗣人、白坂成功 スケーラブルアーキテクチャに基づく価値創造型P2Mの展開ーライフサイクル関係性マトリクスによるプログラムアーキテクティング-	C-4:岡田久典、永井祐二、中野健太郎 里山研究・教育プログラム作成におけるP2Mの活用研究	D-4:岩崎祐子、楓森博 地域型BCM(事業継続マネジメント)構築のためのP2Mフレームワークの考察	E-4:竹内博史、森川高行 P2Mフレームワークから俯瞰したJICAグローバルアジェンダの構造と運営についての考察
10:40-11:00	A-5:小原重信 DX時代の日本型ヘルスケアエコシステムとプラットフォームー社会保障政策と地域医療包括実装へのP2M適用ー				
11:00-11:15	休憩				
11:15-12:15 (32A教室)	特別基調講演: 吉田邦夫 氏(国際P2M学会名誉会長)(討議者: 亀山秀雄副会長、佐藤達男評議員) 「P2M Version5.0の提唱」				
12:15-13:15	昼休み				
午後の部 (総会・挨拶・基調講演・パネルディスカッション) 場所: (32A教室)					
13:15-13:55	総会(会員)				
13:55-14:00	休憩				
14:00-14:10	開会挨拶: 山本秀男 氏(国際P2M学会会長)				
	開催校挨拶: 関良明 氏(東京都市大学副学長・教授)				
14:10-14:50	基調講演(1): 山本修一郎 氏(名古屋国際工科大学教授) 「DX(Digital Transformation)の本質と推進課題」				
14:50-15:30	基調講演(2): 佐藤真久 氏(東京都市大学環境学部教授) 「SX(Sustainability Transformation)の本質と重要性」				
15:30-15:50	休憩、設営				
15:50-17:10	パネルディスカッション: 「SX×DXの相乗効果、P2Mとの相乗効果」 モデレーター: 岡田公治氏(東京都市大学環境学部教授) パネリスト: 山本修一郎 氏(名古屋国際工科大学教授) (順不同) 佐藤真久 氏(東京都市大学環境学部教授) 端山毅 氏((株)NTTデータ、PMI日本支部会長) 田隈広紀 氏(千葉工業大学社会システム科学部准教授)				
17:10-17:20	閉会挨拶: 亀山秀雄 氏(国際P2M学会副会長)				

会場案内図

横浜市営地下鉄ブルーライン「中川（東京都市大 横浜キャンパス前）」駅下車 徒歩5分



横浜キャンパス

〒224-8551 神奈川県横浜市都筑区牛久保西3-3-1

TEL : 045-910-0104 FAX : 045-910-2600

●横浜市営地下鉄ブルーライン「中川（東京都市大 横浜キャンパス前）」駅下車 徒歩5分

東京都市大学 横浜キャンパス

至 中川駅

